

3月のほけんだより

2021年3月1日
ハレルヤ保育園

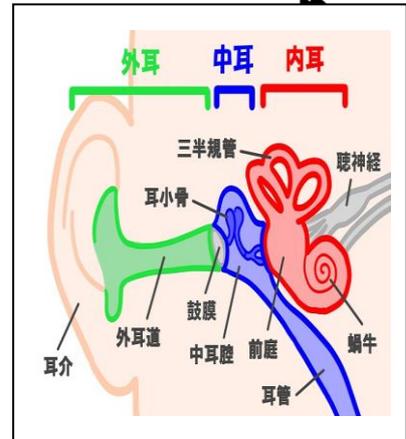
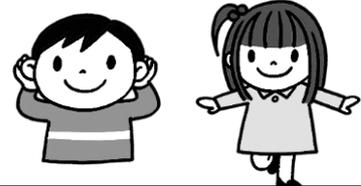
少しずつ日が長くなり、日中暖かくて気持ちのいい日が増えてきました。現在も新型コロナウイルス感染症の拡大予防のために、手洗い、うがいの徹底と、外出する時にはマスクの着用など、小さな子どもたちを病気から守っていくためにも、一人ひとりが衛生管理に気をつけながら、1年の締めくくりのこの月を元気に過ごしましょう。

3月3日は耳の日です

幼児期は言葉を覚える大切な時期です。耳の健康に十分留意しましょう。

耳は、二つの働きがあります。

- 1. 音を聞く** 音は空気の振動として耳に届きます。耳介によって集められた音は、外耳道を通り、鼓膜を振動させます。鼓膜に届いた振動を、耳小骨で大きくして、蝸牛につたえます。蝸牛では、振動を電気信号にかえて、脳に伝えます。この信号を脳が音としてとらえているのです。
- 2. バランスをとる** 耳の奥、内耳にある三半規管と前庭で体のバランスをとる役割をしています。バランスをとるのは、耳以外に頭（小脳・脳幹）と目が関係しています。メリーゴーランドなどに乗った後に、目まいがするのは、おもに耳が刺激されるためです。しっかりと前の景色を見ているとある程度抑えられます。これは目がバランスをとるのに関係しているからです。



【新型コロナくらし情報】

幼児の目に消毒液 注意を！

(スタンド、一人で使わせないで)

新型コロナ対策で店舗や公共の場に置かれたアルコール消毒液が幼児の目に入る事故が増えていると、フランスなどのチームが米医学誌に報告した。消毒液のスタンドを幼児が操作したのが原因とみられることから、危険性を大人が認識し、幼児だけで使わせないことが必要だとしている。

足でペダルを踏んだり、手を差し出したりすると消毒液が出るスタンドで、噴き出し口の高さが4歳前後の幼児の身長と同じ約1メートルのものが多く、フランスの中毒事故センターの記録から、薬品で目に障害を負った子どもの事例を調査。昨年4～8月は、アルコール消毒液が原因の障害が9.9%を占め、前年同期(1.3%)の約7倍に増えた。多くは軽症だが、中等度の角膜炎の報告もあった。

アルコール消毒液は粘膜への刺激が強く、目に入った場合は直ちに水やぬるま湯で洗い流すことが必要。子どもの症状が重ければ、眼科で診療を受けるのが良いでしょう。

(2021/02/23 毎日新聞より)

予防接種の接種もれはありませんか？

3月1日～7日までの7日間は「子ども予防接種週間」です。

新型コロナウイルス感染症のために、接種を遅らせている予防接種はありませんか？母子健康手帳を見て、予防接種の接種もれがないかを確認するようにしてください。

* ロタ予防接種が2020年10/1日から定期接種になりました。対象者は2020/8/1日以降に生まれた子どもです。初回接種は出生後14週6日までとしています。最後まで同じ種類のワクチンを接種してください。



2月の感染症報告 (2/1～26)

突発性発疹

2名